CONTENTS

page.1
園長コラム
「70年目を迎えるにあたって想うこと」
園長　山之内 洋

page.2
まごころを込めた食事づくりを
～調理員さんの声～
学園の調理スタッフ

コロナ禍の野外活動
今村 拓生

page.3
フレッシュさん　稲森 美由紀

演劇発表会 乞うご期待
芝田 春香・中島 和彦

自治会役員児童主催の
スポーツ大会　天羽 結香

page.4
実習先の紹介　【株式会社 三彩】

職員の宝もの　後閑 優香
濱路 登紀子

外部から見た信楽学園
MDF デザイン　上垣 智史

編集後記　天羽 結香

園長コラム 「70年目を迎えるにあたって想うこと」

令和３年度は県からの指定管理を引き続き受けることができ、定員が 60 名から 40 名に変更されてスタートしました。これまでのニューズレターでお伝えさせていただいてきました通り、創設当初から掲げている職業訓練、生活訓練などを目的とした児童が減少している状況があり、社会的養護を目的とした児童も増えている状況です。

令和４年１月時点で、児童数は 23 名です。昨年 11 月には入園後しばらくして学園での集団生活や工場での作業などへの参加が難しく、しんどさを抱えた児童が退園しました。その彼は、中学時代も不登校で家族間でのコミュニケーションがうまくいかず、自宅で暴れたりすることもありました。しかし短期間ではありましたが、学園での生活をした期間、その後の長期間にわたり学園に戻ることができず、自宅で過ごしていた期間は彼と家族に、彼自身のしんどさや障害特性などに向き合える時間となり、本人のペースでゆっくりと考えていけばいいんだとの答えにたどり着く時間となりました。

また、中学卒業時には高校進学を決めていたものの諸々の事情により進学をせずに学園に入園した児童が、どうしても進学をあきらめられないと決断し、自身の気持ちが嘘でないことを証明するため、寮や工場での生活を頑張って保護者や支援者に認めてもらい、受験をすることを決めました。今は受験に向けて、経済的にも自分で頑張るとのことでアルバイトに励んでいます。

学園での３年間のカリキュラムで結果を出すこと（企業への就職など）に支援の方向が偏ってしまうと、児童一人ひとりに対する支援が中途半端になってしまい、その時点での最善の支援が曖昧になってしまいます。長い人生を見越して、今その児童が自分自身の現在地に気づくことがとても大切なんだと考えると、より個別に支援を考えていかないといけないなと強く感じています。特にこの数年は様々な児童を受け入れ、施設として考えさせられることが多くありました。

信楽学園を巣立って行った児童たちも、この１年の間に、様々なことがありました。うれしいことや悲しいこと、苦しみ悩んだことなど、たくさんの報告をしてくれています。地域の関係機関の助けにより課題や問題がクリアすることもたくさんあります。自分自身ではどうしようもなく、SOS を発信してくれる人もいます。そんな報告を聞いている中で、社会で生きていくのは本当に大変だなと感じることがたくさんあります。

彼ら彼女らにとって、社会に出てからの学園としての役割とは何だろう？ちゃんとその役割を果たせているのだろうか、もっとできることはあるのだろうか？とここ数年学園内でよく話題に上がります。アフターフォローについても、もっと細やかにしてあげられればなと感じています。

単に「障害」と一言で済ますのではなく、一人ひとりの児童の背景や育ってきた環境が、どのように彼らの発達や成長に影響して来たのか、どのような経験を積み重ね、どのようなことが未経験で現状に不具合を与えているのかなど、一人ひとりをより広く、そして深く見ていきたいと考えています。そこから一人ひとりの支援を組み立てて行ければと考えます。

当たり前のことではありますが、今一度立ち返って、この指定管理期間の残りの２年間で、令和版信楽学園をどのような学園に作っていくのかを、より具体的に議論していきたいと思っています。

昨年 12 月には「こども家庭庁」の創設に向けた基本方針が閣議決定されました。これから児童を取り巻く制度をはじめ、児童虐待、社会的養護などさまざまな課題に対して検討されていくのだろうと思います。そこには障害児の分野についても検討されるのかなとも思いますが、信楽学園も今年の４月には 70 年目を迎えるにあたり、児童に対する支援の在り方なども再点検していき、より明確な信楽学園の将来を検討していきたいなと感じています。

【園長　山之内　洋】

まごころを込めた食事づくりを ～ 調理員さんの声 ～

学園の厨房が直営となって早いもので2年が経とうとしています。此の間、私たち厨房の職員は一つとなって、きめ細やかな調理を心がけ、また美味しく、安全、安心できる食事を学園の児童たちに提供できるようにと努めてまいりました。厨房の仕事は早朝５：30 から始まり、主な流れとしては朝食・昼食・夕食作り、盛り付け、そして提供、洗浄、清掃となりますが、その中で食材受け入れ時の検収（食材の品温、期限、品質、異物混入のチェック）を行ったり、その食材を使って下ごしらえをしたり、野菜の切り込みの処理をしていきます。

味の決め手は「だしと下ごしらえにあり」とよく言われますが、ちょっとしたカット技術やひと手間で美味しさに差がついてしまいます。食材に適した方法での下処理やカット、出し昆布などの天然だしをとるなどに気を配っています。決められた時間内で作り、スピード感を求められるので、大変な部分も多いですが、調理員皆、作ることが好きなので楽しく仕事をさせてもらっています。また児童たちから「美味しかったです、ありがとう」と笑顔で感謝の言葉をもらえた時が日々の業務の中にもやりがいを感じ、児童が笑顔になってくれる瞬間が私たちの最高の瞬間となっています。これからも児童たちが食べることに幸せを感じてくれるよう、私たちはまごころを込めて美味しい食事を作り続けていきたいと思います。

【調理員チーフ　中林くに子】

【調理員】
玉﨑 洋子
濱路 登紀子
谷 幸子
五島 若子
稲森 美由紀

思い出のエピソード

「ありがとう」や「美味しかった」「ごちそうさま」と言ってくれるのは嬉しい。

日によってメニューが違い、手間がかかる料理の品数によって大変さが違う。

子どもたちと演劇を見たり、BBQ を一緒にしたりしたことは楽しかった。

始めは頼りなかったが3 年目になりしっかり実習に行って成長した姿を見せてくれる児童もいた。

アレルギーや好き嫌い、細かく切るなどと1 人 1 人気を付けないといけない。

調理員さん全員にお話を聞いてみました

子どもたちに伝えたいこと

「好き嫌いはあるかもしれないけど、身体が育つ時期であり、将来病気をしにくい身体を作るための大切な時期でもある。食事は、1 番大切でもあるため、なるべく偏った食事ではなく、少しずつ食べる練習をしてほしい。」

「残食が多い時もあり、少しでも減らせるように、献立や調理の仕方も工夫をしているので、全く手をつけないで返却をするのではなく、ひと口は食べて欲しいと思っている。 これから社会に出た時に、体力が必要になると思うので、出来るだけ食べてほしい。」

コロナ禍の野外活動

2021年8月4日僕たちは地上から1925ｍの山頂で絶景を目にした・・・僕はあの景色を、一緒に登った児童を、仲間を忘れる事はないだろう・・・

「今年度は行事ができるかな～」
そういった会話から今年度がスタートした。
　昨年度、信楽町内笹ケ岳への登頂はできたが、それ以上の範囲を広げることは制限がかかった。子どもたちもニュースを見て「仕方ないな」とあきらめている。児童職員共に学園で工夫しできることを行い、精一杯楽しむ事となった。

　今年度間もなく緊急事態宣言が発令。6 月には全国的に宣言が解除され、登山のトレーニングを始める。何とか例年のスケジュールには間に合った。今年の目的地は長野県の車山。南アルプスが一望できる景色を持ち合わせた日本百名山の１つとされている山である。

車山の登頂を目標に練習を重ね備えていた矢先、7 月には東京に再度宣言が発令され、実施に向けての雲行きが怪しくなる状況であった。予断は許されない状況だったが、日頃から児童みんながマスクの着用や消毒などの標準予防策をしてきたてくれたことに感謝し、バス会社との移動時の方法の検討や食事場所の選定、宿泊施設の貸し切り等あらゆる対策方法を練り、本番を迎えることができた。この緊張感は職員間だけではなく、児童にも伝わっていたと思う。

　当初 信楽学園で登山をする意味は“協力をし合い、目の前ゴールに向かって進む”ことだったはず。今回の野外活動は登山に関する困難だけでは収まりきらない課題をみんなが乗り越えてくれた。「今まで県外の山を登れなかったからすごく楽しみ」と出発前に話をした２年目の児童たちに、昨年度とは違うこの最初で最後の体験をしていただくことが出来て本当によかった。

登山を終えて、冬に差し掛かる頃に活動を振り返り、思い出しながら文章の構成をしているので乱筆乱文をお許し下さい。記事に掲載するいい写真を見つけながら、思い出を振り返っているのですが、今でも鮮明に覚えていることがありまして、それは冒頭での絶景です。しかし残念ですが、皆様と絶景の共有が出来ません。それは山頂で僕の視界に映った景色は少しぼやけていて、児童みんながはしゃいでいた姿なので。　　【今村 拓生】

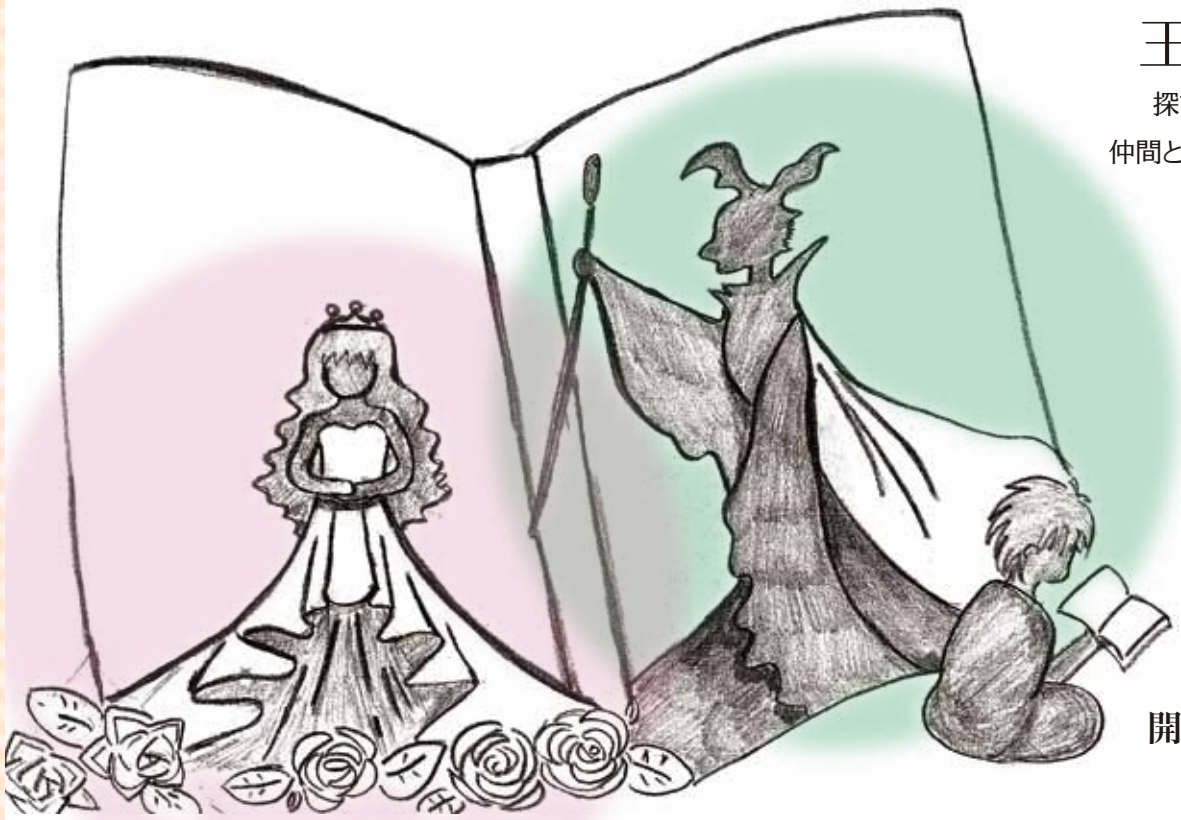
フレッシュさん

稲森美由紀（いなもり みゆき）さん

9月より信楽学園の調理員として勤務させていただいている稲森美由紀です。
私は今年の3月まで 20 年近く公立保育所の調理師をしていました。退職してすぐにこの信楽学園のお話をいただき、私自身も調理経験があることから迷うことなく受けさせていただきました。 今までは 0 才 ～5才の幼児（乳児）の食事の担当でしたので、対象相手の格差いわゆる量の多さ、具材の大きさに日々驚きの毎日ですが、「美味しかったで ～ す!!」 「ごちそう様でした!!」の元気な声に励まされながら楽しく仕事させていただいています。
まだまだ慣れない事ばかりですが、1日も早く調理室の戦力になれる様頑張ります。 よろしくお願いします。

演劇発表会 乞うご期待

「まあ、随分と華やかしいパーティだこと。
私は招待されなかったのでがっかりしました。
オーロラ姫はきっと国中の人たちから愛されるでしょう。
永遠に …そう、このまま永遠の眠りにつくがよい。」



王様の命を受け、呪いを解く方法を探す旅に出る魔法使い3人と警備兵。仲間と協力し合い【希望・夢・友情】を合言葉に試練を乗り越えた先に待っているものとは…。

You're not alone
don't lose hope
「あなたは独りではないよ。
希望を捨てないで。」

2022年 2月23日(水・祝)
開演！@滋賀県立陶芸の森
乞うご期待。

【芝田 春香 ・ 中島 和彦】

自治会役員児童主催のスポーツ大会 開催までCOMIC

自治会とは児童が快適に生活や活動ができるように、学園の行事や運営のサポートを行ってくれる子どもたちの組織です。現在の自治会役員として９人の児童が頑張ってくれており、主に入園式や卒園式、演劇発表会での挨拶や、登山のしおり作り、クリスマス会などを行ってくれています。

今年は「今までにない取り組みを行いたい」と児童から声があがり、自治会役員児童主催のスポーツ大会を実施することになりました。開催の目的決めから、「なんのスポーツが良いのだろうか」、「当日の準備はどうしようか」など全て児童が主体となり、検討、実施しました。
準備から開催までの流れや当日の様子を４コマ漫画でお楽しみください♪

実習先の紹介【株式会社 三彩】

株式会社 三彩

千二百年以上の歴史を持つ信楽焼の伝統を現代に生かすために、「伝統は守るものではなく育てるもの」という姿勢を大切にしながら信楽焼の製造に取り組んでおられる会社です。1970 年の会社設立から 50 年以上窯元として営業を続け、花瓶、傘立、食器、陶酒瓶、干支ボトルなどを製造しておられます。

また、陶器の製造だけでなく、関連会社が運営されているショップ「狸家分福」では、信楽焼の販売や手造りミニ狸・置き物の制作販売を行うなど幅広く営業を行っておられます。

実習1日の流れ

07:50 事務所にて挨拶してタイムカード打刻
08:00 工場に入る（第2焼成）
干支ボトルや花瓶など焼成前の
陶器の掃除や内薬掛けなど

10:00~10:15 休憩
10:15 作業開始

12:00~13:00 昼休憩

15:00~15:15 休憩
15:15 作業開始
干支ボトルや花瓶など焼成前の
陶器の掃除や内薬掛けなど

17:30 作業終了
17:35 事務所にてタイムカード打刻
挨拶して学園に向け出発

現場の声

作業内容をきちんと理解し、丁寧に作業に取り組んでくれています。
一つの作業が終わると報告に来てくれるなど、スムーズに次の作業に取り掛かる事が出来ます。 初めはゆっくりだった事も早くこなせる様になり、 成長を感じ、 とても嬉しく思います。

職員の宝もの

後閑優香さんの

腕時計

私の宝物は母から就職祝いで貰った腕時計です。表面に傷がついたり壊れてしまったりすることを恐れて普段は付けていないですが「社会人になるから少し良いものを」とプレゼントされ、宝物のように扱っています。デザインも気に入っていますが、時間と一緒に日にちや曜日も分かるのでとても便利で使いやすいです。

またこの時計を使う時は時間を見る度に遠くにいる家族を思い出すきっかけになって、心が温まります。同じような経験をしたことがある人は多いのではないでしょうか。

社会人になって周りに知り合いがいない離れた地で生活することは思ったより大変ですが、家族からの贈り物や学園の皆さんのおかげで楽しく過ごすことが出来ています。

濱路登紀子さんの

箏（こと）

私の宝物は 60 年前の十三弦と十七弦の箏です。今のところは年４回程の演奏会やボランティア活動等、コロナの影響でありませんので、練習も全然していない状況です。早く元の世の中になってほしいと思います。

また練習を頑張ってよりいっそう上達したいと思っています。箏が早くケースから出たいと待っています。

外部から見た信楽学園

有限会社 エム・ディ・エフ
MDF デザイン 上垣 智史

広報紙を新たなデザインでリニューアルして作りたいというご依頼を受けて、「思わず手に取りたくなるような、カラフルで POP な広報紙」をコンセプトに、【信楽学園ニューズレター】として第１号を発行したのが、２０１３年の秋。今号が２０２２年１月発行予定で第 14 号となり、信楽学園さんとは丸８年のお付き合いになります。

このニューズレター制作では、学園行事の報告や予告だけでなく、年度毎のテーマ設定にはじまり、各コーナーの記事内容、寄稿者の選定、特集記事や新コーナーのアイデア、各記事の文字数や掲載写真、全体のバランスやレイアウトに至るまで、すべて学園の職員の方々による制作スタッフだけで考えられています。デザイナーとしての私の仕事は、お預かりした原稿を調整しながら紙面に落とし込み、色づけながら構成していくのですが、毎回、学園の制作スタッフさん達の原稿作りには感心させられています。

スタート当初はそれこそ信楽学園の歴史も、児童達の生活の様子もほとんど知らないまま、いち広報紙のデザインワークとして取り組んでいたのですが、号数を重ねるごとに制作会議での何気ない会話や、出来上がった原稿を毎号、最初の読者として読む記事から、若い職員の方々が悩みながら児童達と向き合う真摯な姿勢や、ベテラン職員の方々のいまだ冷めぬ熱い想い、地元地域と学園の関係や歴史、児童達の気持ちなどが垣間見れて、心を揺さぶられることが多々あります。それは外部のスタッフとしてではありますが「信楽学園ファミリー」に少し近づけたようなうれしさがあります。

ニューズレター制作のやり取りのなかで、学園の職員の方々から感じるのは「風通しの良い明るさ」のようなものです。その印象は初めて学園を訪ねた時からずっと変わりません。これは山之内園長のキャラクターによるところも大きいと思いますが、もしかしたら、７０年近く続く信楽学園の校風みたいなものかもしれないなと思うようになりました。

それは、障害を持つ児童の「学校」でもあり「家」でもある学園で、職員の方々は日々さまざまな問題に向き合い、考え、応えていく中で必要な「強さ」のひとつなんじゃないかと思っています。

ニューズレターの中には、熱くシリアスな記事の横に、ちょっと笑えるゆる～い記事があったりします。その振り幅の広さもまた信楽学園の懐の広さを表しているように思います。これからも、たくさんの方に楽しく読んでいただけるように、また私自身このニューズレターを通していろんな感動をもらえることを楽しみにしております。

【上垣　智史
／ MDF デザイン】

編集後記

コロナウイルスの終息が見えない中でありますが、今年度は感染拡大が少し落ち着いたタイミングで昨年度は出来なかった行事が出来ました。

また、学園内で出来る余暇支援にも力をいれ、児童の余暇の充実を図ってまいりました。まだまだ感染状況がどうなるのかは分かりませんが、感染予防の徹底を行いながら、できる支援を模索していきたいと思います。

さて、 今回の表紙のグラフィックの1つが ING 展のチラシの表紙にも選ばれました。そんな作品を作った児童は、いつも笑顔が溢れ 周りにいる人までも笑顔になってしまう、元気で明るい人柄です。展示初日に行われたギャラリートークでは、緊張をしているのを感じさせないほど作品への思いを話していました。 ２月６日まで近江八幡市のボーダレス・アートミュージアム NO-MA で展示されていますので、是非ご覧ください。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染拡大が再度深刻な状況となり、予断を許さない事態となっております。皆様におかれましてもご自愛ください。

ともにこの厳しい状況を乗り切りましょう！　　天羽結香

信楽学園 ニューズレター Vol.14
滋賀県立 信楽学園
〒529-1812 滋賀県甲賀市信楽町神山４７０
☎0748-82-0051 / email : shigarakigakuen@glow.or.jp
編集・発行
社会福祉法人 グロー
glow ～生きることが光になる～
www.glow.or.jp
こちらからバックナンバーも読めます ▶